

区分	薬 剤 名	処理法	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使 用 上 の 注 意
(1) 移 植 栽 培 (つづき)	3) SW-751 粒	土 壌 処 理	温暖地以西.	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ.	+2~+5 (ノビエ 1L まで). ホタルイ: 発生 始まで. ウリカワ: 2L まで.	g/a 300	砂壤土~ 埴土 (2cm/日 以下).	1) 処理前後は浅水で 管理する.
	4) MC-79 粒	土 壌 処 理	寒冷地・温暖地.	一年生雑草, マツバイ.	+3~+7 (ノビエ 1L まで).	g/a 300 ~ 400	砂壤土~ 埴土 (2cm/日 以下).	1) 処理前後は浅水で 管理する.
(2) 乾 田 直 播 栽 培	1) アトラジン 水和	土 壌 処 理	温暖地西部 以西.	一年生雑草.	播種直後~雑草 発生前.	g/a 10~20	埴土~ 埴土	1) イネ科雑草多発田 はさける.
	2) トリフルラリン 乳	土 壌 処 理	温暖地西部 以西.	一年生雑草. (但し, カヤツリグサ科は除く.)	生育期 (播種後 30~40日), 雑草 発生前.	m/a 20~30	埴土~ 埴土	1) 他の除草法 (前処理) との組み合わせで使用する.

編 集 後 記

一雨ごとに春の息吹が感じられるようになり、冬雑草の生育も盛んになってきた。樹木の蕾もふくらみ、人の眼にうつる植物の姿に、ようやく活気が満ちてきた。

人間の世界をふりかえてみると、春とはいえども何となく活気は見られない。最近の食生活の変化から、肉食に偏る傾向が強まり、食肉生産のために莫大な飼料が必要となっているが、その生産の基盤となる土地が地球上では制約を受け、世界人口を養う食糧生産の見通しに悲観的な声も聞かれるようになってきた。工業国へと国の方針を転換しつつある日本にとっては、食糧を外国に依存しなければならない現在、将来、この食糧が確保できえなくなった事態を想定し、そのための対策を今より考えておかなければならない。雑草をあくまで作物の敵とする考え方は古すぎる。今後不足するであろう家畜の飼料に、あるいは人間の食物として、

活用する方法を考えなければならないのではないだろうか。雑草を人間生活の中にとり入れ、これらの雑草の品種改良を進め、栄養価の高い食糧が得られるかも知れない。

これからの雑草研究は、単なる作物栽培の上で考えるよりも、資源としての活用方法について、もっとつとこんだ研究に向かわなければならないのではないだろうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03) 832-4188 (代)

昭和57年3月発行

植調第15巻第12号

¥250 (送料170)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03) 833-1821 番(代)